

編集後記

本学会総会の開催が年1回となって初めての総会が宮崎で盛会の裡に終わりましたが、カジュアルな服装での討論ということも含めて様々な点で印象深い学会総会で、会員の先生方もいろいろな思いや感想を持たれたかと思います。

さて学会雑誌発行は学会にとって最も重要な事業であり、学会の新たな方向性に合わせて様々な変革が必要となります。学会総会でも報告されましたように、編集委員会ではいくつかの変更や改革を予定しています。詳しくは、今後、本学会誌を通じて会員の皆さまにお知らせすることになりますが、いくつかの点について述べてみたいと思います。

ひとつは既存の英文誌と提携して、本学会の英文の official journal を発行する方向で具体的な検討が行われていることです。英文誌と和文誌をどのように位置づけるかも含めて、学会にとってどのようにすればベストかを検討することになると思います。もう一つは、投稿された論文の査読方法の変更です。これまでは3人の編集委員が1組となって査読を行ってきましたが、近年の臓器別の専門化や分子生物学をはじめとした新しい手法による解析が増え、そのことについて詳しい会員や学会外の専門家にも参加していただくことや、広い視野に立っての評価がより質の高い論文を生み出すために不可欠と考え、2人の編集委員に加えてその時々適切な先生お1人に査読をお願いすることになりました。さらに会員の皆さまが投稿される場合は、学会演題応募の場合と同様に、どの部門での査読を希望するかを明記していただくことになりました。上部消化管、下部消化管、肝胆膵脾、外科総論(侵襲、感染、代謝など)の4つの部門に分かれますが、詳しいことは投稿規定をご覧ください。

もうひとつの変更点は、原稿の様式として新たに総説と提言が増えたことです。とくに「提言」を加えるきっかけとなった論文が本号に掲載されています。それは松末論文です。これを読まれた方は是非 Letters to the editor としてご意見をいただきたいと思います。本学会においても大変な努力と検討の上、新たな専門医制度がスタートしますが、専門医をどのように評価すべきなのか、知識か、技術か、判断力か、などいろいろな点があると思います。消化器外科をめぐる諸問題についてのご意見を「提言」として投稿していただければ、編集委員会としては大変幸いです。

(上西紀夫)